

## 平成21年9月期 第2四半期決算短信(非連結)

平成21年4月30日

上場取引所 JQ

上場会社名 PLANT

コード番号 7646 URL <http://www.plant-co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 三ツ田 勝規

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役総務部長 (氏名) 松田 恭和

TEL 0776-72-0300

四半期報告書提出予定日 平成21年5月1日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成21年9月期第2四半期の業績(平成20年9月21日～平成21年3月20日)

#### (1) 経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年9月期第2四半期	42,602	—	487	—	285	—	164	—
20年9月期第2四半期	38,376	△5.9	375	—	339	494.7	166	148.8

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
21年9月期第2四半期	24.24	—
20年9月期第2四半期	24.55	—

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
21年9月期第2四半期	36,903	6,147	16.7	906.70
20年9月期	36,853	6,051	16.4	892.51

(参考) 自己資本 21年9月期第2四半期 6,147百万円 20年9月期 6,051百万円

### 2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
20年9月期	—	—	—	10.00	10.00
21年9月期	—	—	—	—	—
21年9月期(予想)	—	—	—	10.00	10.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

### 3. 平成21年9月期の業績予想(平成20年9月21日～平成21年9月20日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	90,000	8.3	1,100	90.2	1,000	112.4	500	87.0	73.75

(注) 業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

#### 4. その他

##### (1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注)詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

##### (2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

(注)詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

##### (3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 21年9月期第2四半期 6,780,000株 20年9月期 6,780,000株

② 期末自己株式数 21年9月期第2四半期 一株 20年9月期 一株

③ 期中平均株式数(四半期累計期間) 21年9月期第2四半期 6,780,000株 20年9月期第2四半期 6,780,000株

#### ※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 業績予想値は、本資料発表日現在において入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により異なる可能性があります。

2. 当事業年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期財務諸表等規則」に従い四半期財務諸表を作成しております。

## 定性的情報・財務諸表等

### 1. 経営成績に関する定性的情報

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、企業業績や雇用環境の一層の悪化、株安、円高などの影響を受け、個人消費が大幅に低迷する状況が続きました。特に当小売業界におきましては、景気の不透明がいつまで続くのか先が読めない中、消費者の生活防衛意識が強くなり、生活必需品でも日常性の優先順位が低い、衣料品、家電、インテリアなどノンフーズの売上が非常に厳しい結果となりました。

このような環境の中、当社では生活必需品の総合ディスカウントストアとして地域の生活の拠り所となるべく、良い商品を可能な限り安く提供し、遠方より来店されたお客様のご期待を裏切らないよう、欠品対策には十分気を配ってまいりました。また、不景気を反映して高単価な商品よりも手頃な価格帯の商品を中心に取り揃えるなどの配慮をしてまいりました。

その結果、売上高は、新店3店舗（PLANT-4大熊店、PLANT-3福知山店、PLANT-5鏡野店）が寄与し、当第2四半期では前年同期比11.0%増の42,602百万円となりました。

利益面におきましては、平成19年4月より業務改革として取組んできました「PIP（Profit Innovation Project）作戦」による作業技術の応用展開の効果が発揮できたため、値入の向上とロス削減が実現し粗利益率の改善がなされたこと、及び人時生産性から見た作業管理の向上が図られ、人件費を大幅に削減することができました。さらに、広告宣伝費、水道光熱費、修繕費等の販売費、管理費も削減することができました。その結果、営業利益は487百万円（前年同期比29.6%増）となりました。経常利益につきましては、前期に出店した新店3店舗の設備投資に伴う借入金の増加により、主に支払利息が増加したため、285百万円（前年同期比15.9%減）となりました。また、四半期純利益は164百万円（前年同期比1.3%減）となりました。

### 2. 財政状態に関する定性的情報

#### 財政状態の分析

##### （資産）

当第2四半期累計期間末における資産は、前事業年度末に比べ49百万円増加し、36,903百万円となりました。これは主に現金及び預金が1,633百万円増加しましたが、在庫削減により商品が625百万円減少し、減価償却により固定資産が616百万円減少したことによるものであります。

##### （負債）

当第2四半期累計期間末における負債は、前事業年度末に比べ46百万円減少し、30,755百万円となりました。これは主に支払手形及び買掛金が1,641百万円減少し、また、短期借入金、1年内返済予定の長期借入金がそれぞれ、3,070百万円、2,162百万円減少しましたが、長期借入金が6,862百万円増加したことによるものであります。

##### （純資産）

当第2四半期累計期間末における純資産は、前事業年度末に比べ96百万円増加し、6,147百万円となりました。これは主に当第2四半期累計純利益が164百万円となり、配当金の支払額が67百万円となったことによるものであります。

#### キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は前事業年度末に比べ893百万円増加し、4,291百万円となりました。各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

##### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期累計期間において営業活動の結果得られた資金は210百万円となりました。これは主に、税引前四半期純利益が280百万円、減価償却費800百万円、たな卸資産の減少額618百万円があった一方、仕入債務の減少額1,641百万円によるものであります。

##### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期累計期間において投資活動の結果使用した資金は880百万円となりました。

##### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期累計期間において財務活動の結果得られた資金は1,563百万円となりました。これは主に、短期借入金の純減少額3,070百万円、長期借入金の返済による支出12,499百万円、長期借入による収入17,200百万円によるものであります。

### 3. 業績予想に関する定性的情報

今後の国内景気の見通しにつきましては、世界的な景気後退や雇用不安等の懸念材料が多く、引続き予断を許さない状況が続くものと予想されます。

このような状況の下で、当社は平成20年10月31日に発表しました平成21年9月期業績予想数値を達成すべく、売上の確保、並びに引続き人件費を中心とする経費の削減等により、利益の確保に努力してまいりますが、昨今の経済状況を鑑み、経営環境が急激に悪化した場合等、業績予想の修正が必要になる場合には速やかに開示いたします。

### 4. その他

(1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

#### ① 固定資産の減価償却の算定方法

減価償却の方法として定率法を採用している固定資産については、事業年度に係る減価償却の額を期間按分して算定する方法によっております。

#### ② 繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

繰延税金資産の回収可能性の判断に関して、前事業年度末以降に経営環境等及び一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められる場合には、前事業年度において使用した将来の業績予想やタックス・プランニングを使用しております。

(2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 当事業年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期財務諸表等規則」に従い四半期財務諸表を作成しております。

#### ② 棚卸資産の評価基準及び評価方法

第1四半期会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準9号 平成18年7月5日)が適用されたことに伴い、貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定しております。

これにより、従来の方法によった場合に比べ、営業利益、経常利益及び税引前当期純利益はそれぞれ104百万円減少しております。

5. 四半期財務諸表  
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	当第2四半期会計期間末 (平成21年3月20日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成20年9月20日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,091	3,457
売掛金	208	211
商品	7,391	8,017
その他	512	851
流動資産合計	13,204	12,538
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	11,609	12,192
土地	5,365	5,323
その他(純額)	2,067	2,139
有形固定資産合計	19,041	19,655
無形固定資産	1,347	1,358
投資その他の資産	3,309	3,301
固定資産合計	23,698	24,315
資産合計	36,903	36,853
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,379	8,021
短期借入金	—	3,070
1年内返済予定の長期借入金	2,476	4,638
未払法人税等	147	294
賞与引当金	214	317
災害損失引当金	646	646
その他	1,485	1,346
流動負債合計	11,349	18,334
固定負債		
長期借入金	18,039	11,176
退職給付引当金	513	472
その他	853	819
固定負債合計	19,406	12,468
負債合計	30,755	30,802
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,029	1,029
資本剰余金	1,188	1,188
利益剰余金	3,929	3,833
株主資本合計	6,147	6,051
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△0	△0
評価・換算差額等合計	△0	△0
純資産合計	6,147	6,051
負債純資産合計	36,903	36,853

(2) 四半期損益計算書  
(第2四半期累計期間)

(単位:百万円)

	当第2四半期累計期間 (自平成20年9月21日 至平成21年3月20日)
売上高	42,602
売上原価	34,392
売上総利益	8,210
販売費及び一般管理費	7,723
営業利益	487
営業外収益	
受取手数料	26
助成金収入	22
その他	66
営業外収益合計	116
営業外費用	
支払利息	193
シンジケートローン手数料	117
その他	6
営業外費用合計	317
経常利益	285
特別損失	
固定資産除却損	5
特別損失合計	5
税引前四半期純利益	280
法人税、住民税及び事業税	110
法人税等調整額	4
法人税等合計	115
四半期純利益	164

## (3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	当第2四半期累計期間 (自 平成20年9月21日 至 平成21年3月20日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	
税引前四半期純利益	280
減価償却費	800
長期前払費用償却額	84
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△102
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	41
受取利息及び受取配当金	△10
支払利息	193
売上債権の増減額 (△は増加)	3
たな卸資産の増減額 (△は増加)	618
仕入債務の増減額 (△は減少)	△1,641
未払消費税等の増減額 (△は減少)	272
未収消費税等の増減額 (△は増加)	222
固定資産除却損	5
その他	△269
小計	499
利息及び配当金の受取額	4
利息の支払額	△41
法人税等の支払額	△252
営業活動によるキャッシュ・フロー	210
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	
定期預金の預入による支出	△825
定期預金の払戻による収入	84
有形固定資産の取得による支出	△131
その他	△8
投資活動によるキャッシュ・フロー	△880
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△3,070
長期借入れによる収入	17,200
長期借入金の返済による支出	△12,499
配当金の支払額	△67
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,563
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	893
現金及び現金同等物の期首残高	3,398
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,291

当事業年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期財務諸表等規則」に従い四半期財務諸表を作成しております。

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

## 「参考資料」

## 前年同四半期に係る財務諸表

## (1) 中間損益計算書

区分	前中間会計期間 (自 平成19年9月21日 至 平成20年3月20日)	
	金額(百万円)	百分比 (%)
I 売上高	38,376	100.0
II 売上原価	31,146	81.2
売上総利益	7,230	18.8
III 販売費及び一般管理費	6,854	17.8
営業利益	375	1.0
IV 営業外収益	80	0.2
V 営業外費用	116	0.3
経常利益	339	0.9
IV 特別損失	32	0.1
税引前中間純利益	306	0.8
税金費用	140	0.4
中間純利益	166	0.4

## (2) 中間キャッシュ・フロー計算書

	前中間会計期間 (自 平成19年9月21日 至 平成20年3月20日)
区分	金額(百万円)
<b>I 営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	
税金等調整前中間純損益	306
減価償却費	564
引当金の増加又は減少額 (△)	△83
固定資産除却損	25
売上債権の増加額(△) 又は減少額	△6
たな卸資産の増加額 (△)又は減少額	△580
仕入債務の増加額又は減 少額(△)	209
その他	△137
小計	298
法人税等の支払額	△16
その他	323
営業活動によるキャッシ ュ・フロー	307
<b>II 投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	
有形固定資産の取得によ る支出	△1,718
無形固定資産の取得によ る支出	△4
その他	486
投資活動によるキャッシ ュ・フロー	△1,237
<b>III 財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	
短期借入金の純増加額又 は純減額(△)	△2,970
長期借入による収入	5,668
長期借入金の返済による 支出	△1,796
配当金の支払額	△66
財務活動によるキャッシ ュ・フロー	834
<b>IV 現金及び現金同等物の増加 額(又は減少額)</b>	△94
<b>V 現金及び現金同等物の期首 残高</b>	2,032
<b>VI 現金及び現金同等物の中間 期末残高</b>	1,937